

地域へ開かれた企業のモデルとして

日産自動車株式会社 栃木工場

日産自動車株式会社栃木工場は、魅力的な商品やサービスを提供するだけでなく、近隣地域とのコミュニケーションを大切に考え、さまざまな活動を行っている。「ブルーシチズンシップ（クルマをつくる企業である前に地球に暮らす市民の一員であるという考え方）」に表れている日産の決意—青い地球を守り、人や社会と共生する企業市民でありたい—から、地域へ開かれた工場となるべく、環境・スポーツ・教育など多岐にわたる活動を通して地域との交流を図っている。

□■□会社概要□■□

日産自動車株式会社栃木工場では、1968年にアルミ・鉄の鋳造、翌年にはアクスルの機械加工・組立を開始し、1971年の組立工場の完成に伴い、車両の最終組立までを行う一貫生産体制を確立した。日産の国内工場では最大の面積を誇る工場敷地内では、高級車やスポーツカーを生産している。

■□■企業データ■□■

●社訓

ビジョン：人々の生活を豊かに
ミッション：私たち日産は、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、その目に見える優れた価値を、全てのステークホルダーに提供します。それはルノーとの提携のもとに行っていきます。

●代表者

高岡 洋海（理事 工場長）

●所在地 〒329-0692 栃木県河内郡上三川町上蒲生 2500

●設立年 1968年

●従業員数 約5,000名（2010年9月末現在）

●TEL 0285-56-1204

●FAX 0285-56-7105

NISSAN しらさぎ祭りの開催

日産栃木工場では、「地域の皆様とのコミュニケーションを図る」ことを目的に NISSAN しらさぎ祭りを開催している。毎年、福祉施設 15 団体が出店料無料で参加している。また、日産ブースではボランティア・NPO 団体を応援するバザーを開催。従業員がバザー品を提供・販売し、売上金を寄付する活動及び、従業員の募金による車椅子の寄贈活動も 1997 年から継続実施されている。この活動も上三川町社会福祉協議会の声を聞いたことがスタートのきっかけである。



福祉施設のお店に行列が出来た様子

各種見学会の開催

日産栃木工場では、クルマづくりをより多くの人に知ってもらうため、各種の見学会を開催している。

「ふれあい見学会」は、社会福祉施設の利用者と一緒に

従業員が工場見学と懇談会を通じて交流を深める見学会である。1993年度開始以来、59団体1,349名、従業員221名が見学会に参加し、従業員に対するボランティア機会の提供と実践の場となっている。2010年度は8団体、227名が参加予定。また、地域の方々や各種団体を対象に日産栃木工場内の環境施設を見学してもらう「環境施設見学会」も開催している。



ふれあい見学会の様子

商品販売の場の提供

日産栃木工場が福祉施設手作り商品販売の場を提供し始めたきっかけは、地域の福祉施設・NPO等を応援するにあたり、普段の活動を通じて何か困り事はないかと聞いたところ、7割の団体が「手作り商品販売の機会が欲しい」を挙げたことによる。

それに応える形として、福祉施設手作り商品のオリジナルカタログを作成し、関連企業や地域の方々にPRをしている。併せて、誰もが参加しやすい活動として、月1回、福祉施設自慢の手作りパンや焼き菓子、手芸品などを工場内で昼休みに販売、工場の従業員がボランティアで販売の手伝いをしている。地域のイベントでも福祉施設・NPO等の手作り商品を「日産福祉の店」で販売をしている。

今年、福祉施設手づくりの弁当を従業員に広くPRして、各地域での行事に利用してもらうキャンペーンを計画している。既に、昨年から工場見学者の弁当を福祉施設にお願いしており、大変好評とのことである。



利用者さんの生き生きとした販売の様子

日産モノづくりキャラバン

日産栃木工場の「日産モノづくりキャラバン」は、2008年から日産のモノづくりに対する情熱を子ども達に伝えるために、県内の小学5年生に出前授業を行なっている。2010年度は、67校、2,800名、2011年度も78校、3,500名が受講予定、復興支援と

いうことで、福島県内の5校でも実施する。

授業は、組立おもちゃを使つてのモノづくりのための工夫を体験。工場の現場で使われている工具や保護具を実際に触ってもらい、工場見学では得られない生のモノづくり体験を提供している。